

非匿名化情報の提供における標準的な作業の確立を目指して

P 3-6

～個人照合の業務効率化に向けた取り組み～



目崎はる香¹ 齋藤美登里¹ 植野由佳¹ 佐藤洋子¹ 金村政輝^{1,2}

¹ 宮城県立がんセンター宮城県がん登録室

² 宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部

【背景と目的】

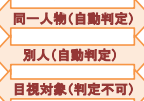
- 宮城県がん登録室では、がん登録情報の提供を行う窓口組織が設置されており、**1970年以降のがん登録情報を提供**している。
- 非匿名化情報**の提供においては、**令和4年度に約6万件の照合用名簿に対して個人照合を実施**した。
- 照合システム**には、2019年次確定時点で**約67万件の個人が登録され、目視同定に作業時間を要することが課題**であった。
- 今後、がん検診の精度管理やコホート研究等の定期的な提供が想定されるため、**照合件数が増加しても遅滞なく提供できるように照合作業方法を検討**したので報告する。

照合の仕組み

◎照合用名簿(利用申請者が提供)

No.	氏名	生年月日	住所
1	宮城 一郎	1900/1/1	宮城県●●市◆◆1-2-3
2	宮城 二郎	1900/1/2	宮城県●●市◆◆1-2-3
3	宮城 三郎	1900/1/3	宮城県●●市◆◆1-2-3

照合



◎全国がん登録システム

No.	氏名	生年月日	住所
1	宮城 一郎	1900/1/1	宮城県●●市◆◆1-2-3
2	宮城 花子	1950/12/31	宮城県■町◎◎4-5-6
3	宮城 三郎	1900/1/3	宮城県●●市◆◆1-2-3

目視同定に作業時間を要する理由

目視件数の多さ→宮城県では照合用名簿の約8%が目視に挙がるため、名簿が数万件の場合、数千件の目視が必要
全データを対象→一個人に対する照合のため、対象年によらず、1970年から現在までの全データに対して目視が必要

【方法】

➤ 従来の方法

照合は1回行い、照合後の目視は全件実施。

➤ 改善案(照合を2回行う方法)

- 1回目の照合を行う(従来の方法と同様)。
- 照合後の目視候補者を全て同一人物と判定する。
- 提供対象のがん情報の紐づけを行う。
- 1回目の照合でがんが紐づいた情報を照合用名簿から抽出する。
- 抽出した情報のみを、照合にかけ、従来の目視作業を行う。

目視をみんな同じ人と判定して、がんが紐づいた人だけもう一回目視する手順にしたら楽になるかも？

・過去に提供実績のある照合用名簿 500件を用いて、従来の方法と改善案で以下の項目について比較を行った。

1. 目視件数

従来の方法は、改善案1回目の照合後の目視件数、改善案は、2回目の照合後の目視件数とした。

2. 作業時間

① 改善案(実測値)

提供に関する照合の経験者と未経験者の2名で目視を行い、作業時間を計測した。

② 従来の方法(予測値)

目視件数が改善案の1回目と同じ件数と仮定した場合の作業時間を算出した。
算出には、照合用名簿約12万件の作業時間をもとに作成した、作業時間の予測表を用いた。

3. がん情報の出力結果

【結果】

1. 目視件数

	件数	判定
1回目の目視	57	全て同一人物と判定
2回目の目視	2	同一人物が別人か確認して判定(本来の目視)

1回目の全件に対する目視**57件のうち55件は、提供対象外の目視**であり、**実質的な目視件数**は、2回目の目視の**2件**であった。

2. 作業時間

	改善案			従来の方法
	経験者	未経験者	平均	
作業時間(分)	20.5	29.5	25	29

改善案の作業時間の平均は25分と従来の方法より4分短縮した。

改善案作業内訳	経験者(分)	未経験者(分)	平均(分)
1回目の目視	3	7	5
1回目の照合結果にがん情報を紐づけ	2	2	2
がんが紐づいた情報を照合用名簿から抽出	5	10	7.5
2回目の照合	10	10	10
2回目の目視	0.5	0.5	0.5
合計	20.5	29.5	25

3. がん情報の出力結果

従来の方法と改善案の**出力結果は一致**した。

【まとめ】

- 改善案は、1回目の目視では全て同一人物と判定すること、2回目の目視では提供に関係するものの判定でよいこと、作業時間が短縮することから、従来の方法より**実務者の負担が少ない**と考えられた。
- 令和5年度から**改善案を採用し提供業務で実施**している。

日本がん登録協議会
第33回学術集会 COI開示
筆頭演者名: 目崎 はる香
当演題発表に関し、開示
すべきCOIはありません。